



保育の中の物語 (12)

「おにいさん」と

「おにいちゃん」

～小さいけれど、大きな問題～

岸井慶子

三年保育年中組。A男、B男、C男がままごとコーナーに入る。先程まで楽しんでいたスタンプやさんごっこの遊びを自分でおしまいしてきたのだ。みるからに小柄なA男に比べB男・C男は背が高い。そこへ、A男と同じように小柄なD男が入ってきた。

D男が戸棚の前にいるA男に小声で「僕がおにいさん。A君がおにいちゃんね」と二人の役割を決め始める。A男は不満そうな表情で黙っている。C男が二人の間に割り込むように「僕おとうさんね。僕おとうさんです」と二人ではなく遠くに向かって宣言し、「そうだ。Mちゃん、Mちゃん。おかあさんになって」と離れた所にいるM子に呼びかける。B男も「(僕も)おとうさん」と片手をあげて大きな声で宣言。B男とC男は顔を見合わせ交互に「お



とうさんです」「おとうさんです」を何度も繰り返す（ここではお父さんが二人いてもなんら問題にならない。むしろそのことを楽しんでる）。

一方、黙っていたA男が、動き始めたD男を追いかけるようにして、ついに「（僕が）お・い・い・さん、だよ」と強く言い返し、再び戸棚の前に移動する（お兄さんとお兄ちゃんのはつきり違うらしい）。D男はA男の後を追って「A君がおにいちゃん、僕がおにいさん」と、静かではあるが一貫した主張を続ける。A男は相変わらず不満そうにD男を見つめ黙っている。

二人のやり取りに気づいたB男が「あー。（D男に）おにいちゃん。（A男にも）おにいちゃん」とそれぞれを指さしながら命名する。A男の表情が曇る。

間髪入れず、今度は賑やかなC男がおどけた様子で「（D男に）おねえちゃん。（A男に）おにいちゃん」と指さしながら言う。A男は、頬を膨らませて怒ったような表情。D男は、何が起きたのかわからないような表情で相手の顔を見ている。すかさずC男が今度は「（D男に）おにいさん。（A男に）おにいちゃん。それで、僕おとうさん。おとうさん」とうれしそうに飛び跳ねながら言う（あんまり細かいことにこだわるなよ早く遊ぼう、とでも言うようだ）。

B男が、今度は相手の表情をのぞき込みながら、ゆつくりと「（D男に）おにい、ちゃん。（A男に）おにい、さん？」と確かめながら言う。A男は、うれしそうなお表情で、大きく二度ほどうなずき、背筋を伸ばしてぴよんと飛び上が



る。「おにいちゃん」にされたD男は、不満そうな表情で両腕を後ろに組み、すぐにその輪から離れる。四人で固まって話し合っていたのが、今度は三人対一人になった。B男「おにいさんのほうが高いんだよ」C男「知ってる?」、D男「もちろん知ってるよ」おにいさんのほうが背が高いんだよ」と片手を床に、もう一方の手を頭の上方に伸ばす。B男「そう。おにいちゃんのほうが背が、ちよつと、低いんだよね」と手振りで示しながら説明する。D男「じゃあ比べてみよつか」と戸棚の出っ張りに腰かけている(少し位置が高くなる)A男を抱きかかえて床面に降ろそうする。するとA男は両腕を突っ張って戸棚にしがみつき「く、ら、べ、ない」とひと言、大きな声で拒否。

A男の気持ちを察したのだろうか、B男が「じゃあ、B君(自分のこと)と比べてみよう」とD男の隣に並ぶ。C男が「B君のほうが(D君より)高い。それよりCちゃん(自分のこと)のほうが、高い」とうれしそうに自分も含めて比べる(D男はなぜB男やC男との背比べを喜ぶのかしら)。

今度は、C男がA男を柵から強引に降ろし、D男と二人を並べる。B男が見比べ「あー、おんなじくらいだよ」。するとD男「いえーい。おんなじくらい。おんなじくらい。おんなじくらい」と片手を上にあげ喜ぶ(なぜ「同じくらい」がうれしいの?)。

ひと呼吸おいて、B男が「だけど、ちよつと、A君のほうが高い」と言い、



「ねっ」とA男の顔をのぞき込む(D男にもA男にも配慮しているのだろうか)。するとD男「違うよ。僕のほうが高いよ」、B男「えっ、違うよ。A君のほうが高いよ」、D男「だってさ。A君はここに(A男の腰かけている棚を手でなでながら)」と言い、再びA男を抱きかかえるようにやや強引に床に降ろす。渋谷背比べをさせられたA男だが、(足元をみるとびっくり)最大限のつま先立ちをしている(なんとけなげではないか)。そうとは知らないD男は自分の手でA男と自分の頭の位置を比べ、自分のほうが低い(実際は同じくらいなのだ)、D男が頭を斜めになっているので)と思ったのか、なんとなくその場はそれでおしまいになった。このあと、「ちゃん・さん」問題はすつきりとした納得に至らず、遊びの中で何度か再燃する。その都度、取っ組み合いや、おどけがでてきては雰囲気を変え、驚くほど遊びは続いた。

このエピソードは、その長く楽しい物語のほんの一部の出来事だ。そして私にとって一番わかりにくい部分だ。見直すたびに解釈が変わる。不可解な部分に重要な意味が隠されていること、そして小さな問題(と思われること)が、子どもにとって大きな問題でもあること、を学ばせてもらった。観察者にとってわかりやすいことばかり追ってはいはだめだなあ、と反省させられた。

(鎌倉女子大学短期大学教授)

\*この連載は今回で終了いたします。